

任意接種

おたふくかぜワクチン

予防する病気 流行性耳下腺（おたふくかぜ）

耳の下の部分が腫れ痛みや発熱を伴う病気で保育園や幼稚園など集団生活での感染が多くみられます。通常命にかかわることはありませんが髄膜炎や難聴、思春期以降では睾丸炎や卵巣炎を合併することがあります。

ワクチン接種

1歳以上であればいつでも接種可能です。成人でも接種できます。でも早く接種するにこしたことはありません。1歳になったら1回目を接種、その後2～5年あけて（通常幼稚園、保育園の年長ごろ）2回目を接種します。

ロタウイルスワクチン

予防する病気 ロタウイルス胃腸炎

ロタウイルスは乳幼児の胃腸炎の原因としては最も多いものでほぼすべての子どもが1度は感染します。発熱、嘔吐、下痢が主な症状で通常治癒しますが脱水などのため患者さんの約15人に1人が入院を必要とする状態になります。また稀ではありますが高度の脱水によるショックや脳炎を合併し命にかかわることもあります。

ワクチン接種

2回接種するものと3回接種するものがありいずれも経口接種（口から飲む）です。生後6週間から接種可能ですが腸重積の後発時期を避けるため1回目の接種は生後14週6日までに済ませる必要があります。1回目の接種から4週間以上の間隔をあけて2回目を接種します。3回目の接種は2回目の接種から4週間以上あけて行います。2回接種タイプは生後24週までに、3回接種タイプは生後32週までに接種を完了する必要があります。2回接種タイプと3回接種タイプの予防効果はほぼ同等といわれています。

インフルエンザワクチン

予防する病気 インフルエンザ

毎年冬から春にかけて大きな流行を起こします。学級閉鎖や学年閉鎖、時には学校閉鎖が必要になることもあります。急な高熱、頭痛、関節痛などほかのかぜに比べ強い症状がみられます。ほとんどの人は治りますが脳炎・脳症や肺炎などを合併し重症化や死に至ることもあります。

ワクチン接種

生後6か月から接種でき、13歳以上は1回、13歳未満は2回接種します。2回接種する際は1回目の接種から2～4週間あけて2回目を接種します。